

2022年度 大学入学共通テスト 数学ⅡB(本試験) 分析

試験時間60分

難易度	出題分量	出題傾向
難化 国公立の2次試験のように 具体から一般化し、時間内に 解き切るのは難しい。	増加 解答数は若干増えたが、全 体的に問題文が長く、出題分 量は大幅増加。	「図形と方程式」が出題さ れ、解答群から選ぶ問題が 増加した。「数列」で実生活を 題材として出題された。
総評 問題の状況把握に時間がかかり、時間的には相当厳しかった。出題のテーマも多岐にわたり、幅広い知識が必要であった。また太郎君と花子さん2人の『思考』を読み取り、解答していくことが要求された入試であった。文章の読解に苦心した生徒も多かったであろう。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]図形と方程式 [2]指数・対数関数	30点	[1]誘導が丁寧で解きやすかった。 [2]底と真数を入れ替えた問題。具体から一般化できたがポイントである。
第2問	[1]微分法 [2]積分法	30点	[1]「交点の個数」＝「解の個数」の関係を用いて実数解の個数を調べる問題。 [2]2つのグラフの大小関係を把握して、計算の工夫が出来れば解けたであろう。
第3問 (選択)	確率分布	20点	標準的な問題。指数計算は少し難しいが、ここはしっかりと解答しておきたい。
第4問 (選択)	数列	20点	文章が長く、状況理解をいかにスムーズにできたかがポイント。立式さえできれば、あとは標準的な問題であった。
第5問 (選択)	ベクトル	20点	円周上の3点の位置関係に関する問題。(2)の点の存在位置は、イメージ図をしっかりと描ければ、解ける問題であった。

次年度以降の受験生へのワンポイントアドバイス

国公立大学の2次試験のような、具体から一般化への流れを作れるようになることが重要であり、まずは教科書・問題集をベースとした基本事項の確立が必要不可欠である。発展的内容ではなく、基礎的内容を理解・説明出来るようにし、『使える』様になるまで反復復習の徹底を行おう。また、模擬試験を用いて、演習量を増やしていくことも対策になるであろう。